

日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行 日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3-6 電話24-2456

市民と野党の共闘こそ いのち・くらし・憲法守る道 新たな前進へ一歩！

衆院選 各地で訴え



街頭から訴える舟木けんじ市議

10月31日投票の衆院議員選挙で、田中はじめ、舟木けんじ、たちばなふみの共産党市議団は、小選挙区根拠地で、のこり、あきこ、の勝利と、日本共産党



連日スタンディングでアピール たちばなふみ市議とサポーターズ

躍進・大平義信候補の国政復帰をめざし、党支部・後援会の皆さんと共に、市内で街頭宣伝に取り組みました。島根1区に候補者を立てなかつたため、県内で選挙期間中宣伝で



鹿島町で訴える 中林よし子元衆院議員と田中市議

きるの、2区の向瀬候補者カーと政党カーのみでした。政党カーが松江に入った日、三市議を中心に、中林よし子元衆院議員、尾村利成県議が、市内各地で訴えました。



衆院選開票から一夜明けた1日、松江市では、上代善雄県委員長、尾村利成県議(副委員長)、岩田剛東部地

区委員長に加え、田中はじめ、舟木けんじ、たちばなふみの松江市議団が街頭に立ち、「国民の声が生きる新しい政治をつくるために、引き続き力を尽くす」と訴えました。尾村県議は、市民と野党の共闘が力を発揮し、自民党の派閥代表や閣僚経験者を打ち破ったことを報告した上で「医療切り捨ての自民党政治で全国852あった保健所が469になり、島根県でも10から7か所に、職員は50人削減された」「2013年に9175床あった病床は2021年には7958床に、さらに2025年には6559床まで減らす計画がすすめられている」と告発。「党が訴えた四つのチェンジ、①いのちと暮らし最優先の政治への転換、②石炭火力の新増設、原発再稼働依存しないCO2最大60%削減で気候危機打開、③男女別の賃金格差の是正などジェンダー平等の日本、④憲法9条活かした平和外交をめぐって」「市民連合と野党4党が結んだ共通政策は国民の切実な願いそのものだ」と強調。「これを実現することこそ国民の苦難を解決する道であり、今後もこの立場を鮮明にしたたかかっていく」と決意表明しました。

衆院選結果を受け、党・県・市議団が街頭で訴え

原発説明会これでは不十分 市議団が申し入れ

9月15日、島根原発2号機が適合性審査に「合格」して以降、早々に県と市共催の住民説明会が開催されています。しかし、現在、適合性審査が終了した段階であり、「設計及び工事の方法その他の工事の計画」の認可申請の審査、「保安規定」認可申請の審査は審査中です。

不祥事を繰り返す中国電力が危険な原子力発電を運転する資格があるのかに関する保安審査は原子力規制庁も「ありきたりの手順では納得しない」「厳しく審査する」としています。審査が終わっていない段階で、国のエネルギー政策に従って「事前了解」への道筋をつけることは松江市民の命と健康、安全を軽視するものです。

また、県市共催の住民説明会は、その場で約370頁に及ぶ膨大な資料を渡され、時間がないと端折って説明される等、説明会として不十分です。さらに、質問時間や回数、項目数に制限があるため、住民の意見を聞く場に全くなっていないと訴えています。市が立てた避難計画を内閣府に説明させることに疑問の声があがっています。

以上のことから、共産党市議団は5日、上定昭仁市長に対し、以下の内容の申し入れを行い、政策部佐目元昭次長、防災安全部成瀬和久原子力対策課長らに対応しました。

1. 「設計及び工事の方法その他の工事の計画」及び、「保安規定」認可申請の審査を経た後に、市長は市民の声を聞くこと。それまでは事前了解をしないこと。

2. 説明会の終了で住民の声を聞いたことにせず、公聴会など、市長が直接市民の意見を聞く場を公民館単位等、小規模で開くこと。

3. 松江市のたてた避難計画は松江市が説明すること。

4. 住民の声を聞くための、住民投票を行うこと。

これに対し、1と2については、現段階で結論に向けた日程は決まっていない。3については、内閣府の緊急時対応の策定をもって避難計画の実効性は担保されたと認識している。審査と別に、平成26年作成の避難計画を、地域へ出向く小規模の説明会等の方法で周知を図っていく。4については、住民投票にはなじまず、市長として総合的に判断するスタンスである等と回答がありました。



上定市長への申し入れ書を手渡す市議団